

バス旅行の報告

コロナ禍で延期になっていたバス旅行が、10月5日、44名を乗せた超大型バスにて、栃木県の大谷石資料館に向けて出発。昼食時に提供する予定の冷えたビールも待ち切れず、途中休憩から飲み始め、みんな楽しそう！圧巻のスケールの地下神殿を、私たちが企画した最後のバス旅行目的地に選んで大正解。全員満足度100%でしたね。

早目のビールで酔いが冷めた頃、自腹で購入のアルコールと共に、芝生を見ながら飲み会？の自由昼食。それから外池酒蔵での試飲後に、室内がピンク色の岩下新生姜ミュージアムへ。



帰りの車内では、ビール・お茶等を景品にビンゴゲームやクイズ・なぞなぞで、大盛り上がり。

最後は、今回御参加頂いた皆様に、感謝と御礼を込めて手作りのお菓子セットを、添乗員さん・ドライバーさん含めて一人一人に手渡し。

4年越しのバス旅行も、皆様の協力で無事終了する事が出来て感謝です。

さわやか '17 阿部久美子

同期会訪問 ②

「あなた任せ」からみんなで少しずつ

今回は、2006～2013年に設立された、ひとみ会・虹の会・楽友会・二三の会・みんな・一笑会の会を訪ねての報告です。楽友会等2010年以前発足の会では、前回紹介した各会同様、高齢化による消滅の危機を強く感じました。他方、結成が2011年以降の会では、70代の会員がまだまだ多く同期会活動も活発ですが、活動の企画・運営等は一部の会員に任せ、お膳立てされた活動を楽しみたい一般会員が多いとの印象を受けました。NSN活動への参加も同様で、NSNに関わっているメンバーは限定されているようです。この傾向は、2014年以降の平成期にできた各同期会にも共通するものと感じます。アリの集団では、積極的に働くのが2割、ブラブラしているのが2割、残りはその中間とのことですが、それに似ています。因みに、活動的な2割が疲れるとそれに代わって残りの一部のアリが活性化し、2:6:2の全体バランスは変わらないそうです。実際、「時が来れば後を担う気はある」と語る会員もいて、身近な同期会活動の担い手は現れそうです。他方、NSNは多くの一般会員にとって縁遠い存在のようで、心配になりました。

NSNは純粋なボランティア活動であり、強制はできません。強制されたら退会もできます。他方、一部の役員・委員会世話役等に事務が集中する体制を改め、多くの会員に少しずつ仕事を担ってもらうようにしようとの議論が進んでいます。しかし、その実現には各同期会からいま以上の方にNSN活動に参画してもらわないといけません。一つのヒントは、一笑会の3年ごとの会長交代とNSN活動に多くの一般会員が関与する運営でしょう(本年8月号同期会便り第2回参照)。

さて、今後の同期会訪問ですが、若い会ほど違いが大きく、短時間の訪問の印象だけで共通点を見出すのは難しいと感じ、ここで終えたいと考えています。会報「同期会だより」に会の主張、NSNとの距離感等をどうぞ思う存分書いてください。

会長 武藤 哲

目安箱のご案内

会報について、いつでも自由にご意見を頂きたいと思い、目安箱を設けることにいたしました。下記のメールに何でもお寄せください。

お待ちします。 tmar@jcom.home.ne.jp

会報/NSN 編集委員会 丸山敏雄

《セカンドライフサロンのご挨拶》

本年7月に再出発しましたセカンドライフサロンよりご挨拶申し上げます。

本会は2011年に3人の先駆者が高齢期の住まい方をテーマに始めた「ついの住まい研究会」から、今年で設立12年を迎えました。諸先輩はこれまで数々のテーマに取り組んでこられました。今年に入ってメンバーの交代がありました。新メンバーは会の名称を、軽やかに気軽に参加しやすいサロンをイメージしたセカンドライフサロン(以下、サロン)とし、7月のサマーフェスティバルで発表しました。

そのサマーフェスティバルで皆様の関心ごとのアンケート調査を行いました。サロンはその結果も踏まえて『長寿社会を安心して楽しむための学び』をテーマにした講座を定期開催して参ります。



サマーフェスティバルのアンケート風景

人生100年時代を楽しく生き抜くのが一番ですが、やはり介護や認知症そしてついの住まいも気になるところです。これらを見据えて学んでおけばきっと私たちのセカンドライフに役立つ情報になります。

第1回目の講座を来年1月28日(日)に石神井公園区民交流センターで開催します。テーマは【エンディングノート】です。私たちが考えておくべき事柄は人によりさまざまではありますが、その中で何か見落としはないでしょうか。その見落としをカードゲームで楽しみながら気付いていただく講座です。ゲームの後には参加者の意見交換の場もございます。詳細は案内チラシをご覧ください。皆様のお出でをお待ちしております。

セカンドライフサロン 伊藤 健一



新メンバー

【投稿】 突然の病と向き合う(2)

～ 友人知人との繋がりをどう持つか ～

ネットと電話で繋がってみました。

脊髄炎で行動が制約される中、友人知人との繋がり方を探しました。まず始めたのがフェイスブックです。遠くの友人とも交流ができ、懐かしさもありました。そして嬉しかったのは電話、かけ放題の長電話です。しかしコロナ明けでリアルな会合が増えてくると、フェイスブックも長電話も前の様には盛り上がりません。やはりリアルが良いのです。サマーフェスティバルの写真がまぶしく感じられます。

参加しやすい地域で繋がりませんか。

NSNの仲間との繋がりを身近な地域で活かさないでしょうか。同期会はそのままに、行動に制約のある方や地域の話題に興味のある方で、最寄り駅や地域包括センターくらいの範囲で交流できないでしょうか。2、3か月に一度、慣れた会場まで15分くらいのお茶会です。どのお店が良いか美味しいか、その街の歴史や将来など、身近な話題で盛り上がりそうです。

「ネット + リアル」も良いかも知れません。ガーデニング、写真など同好の、共通の関心を持った会員で、普段はネットで繋がって、年に何度かはリアルで交流する形はどうでしょう。

元気な人も、制約のある人も分けへだてなく参加できます。

より負担なく繋がれる交流形態があれば。

コロナが明けて「さあこれから」ですが、一方、病気や高齢化でNSNへの参加が制約される方も出てくるでしょう。参加への負担が少ない交流形態があれば、より長く広くNSNの仲間と関われるのではないかと思います。「先ずお前がやってみろ」であれば、「ネット+リアル」で高齢期の住まい方をテーマに、でしょうか。

みんなの会 西 和彦



老人ホーム入居のOB会員も交えた「高齢期の住まい」をテーマにした交流会の様子です。追記：前号後、脊髄炎発症が新ワクチン被害と国に認定されました。

【編集後記】西さんの投稿では、色々な交流の形が提案されました。如何ですか？これに限りませんが、ご感想・ご意見を今号から設置した「目安箱」にお寄せください。(O)